



alicセミナー
ニュージーランドの
シェアミルクカー経営と最近の動向

平成27年9月29日

独立行政法人農畜産業振興機構
調査情報部 国際調査グループ

根本 悠

本日の内容

はじめに

- 1 シェアミルクカー経営の定義
- 2 シェアミルクカー経営の現状
- 3 シェアミルクカー経営を取り巻く最近の動き

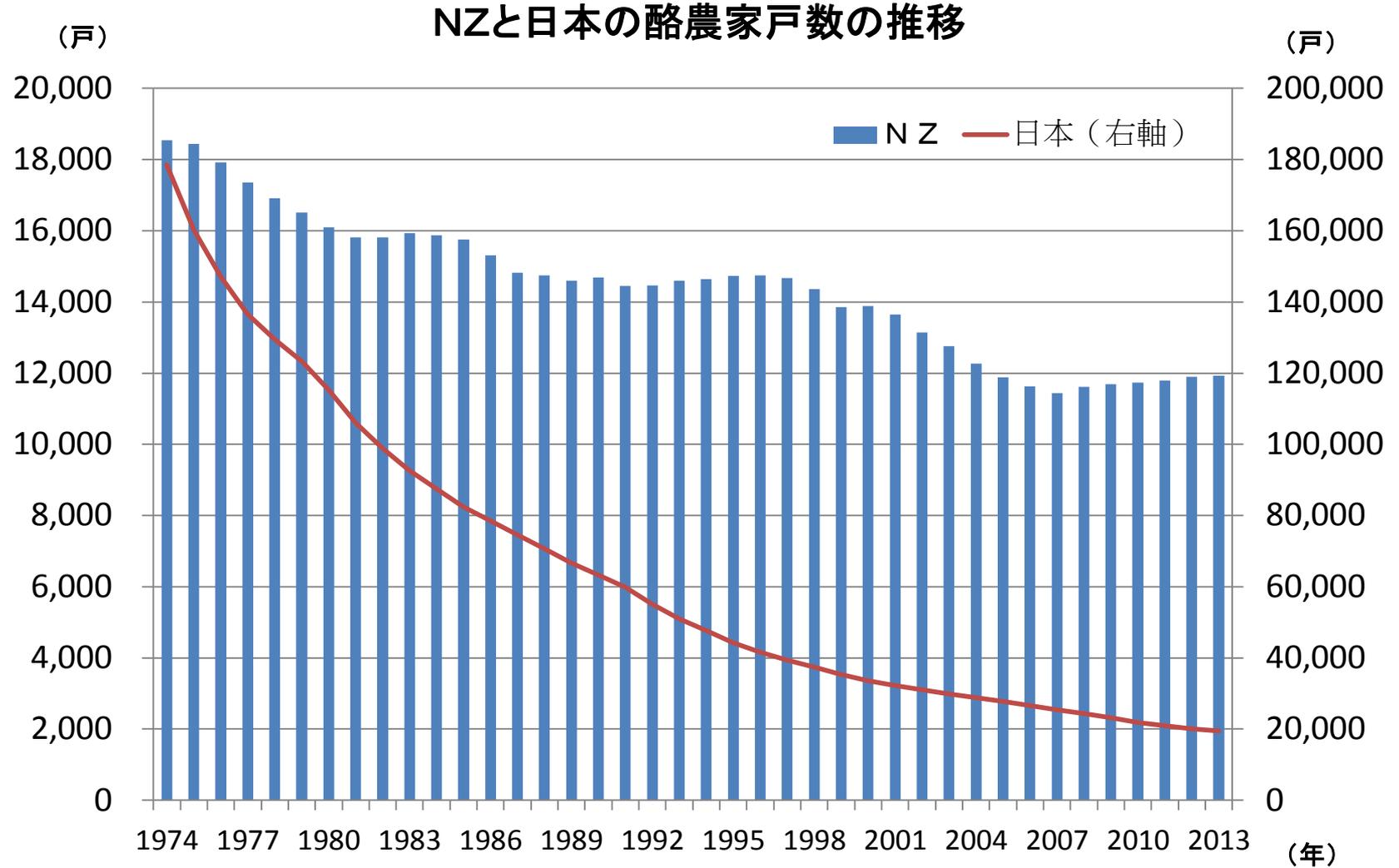
おわりに

(補足) 最近のNZの酪農乳業情勢

※8月末時点での外国為替相場: 1NZドル=80円

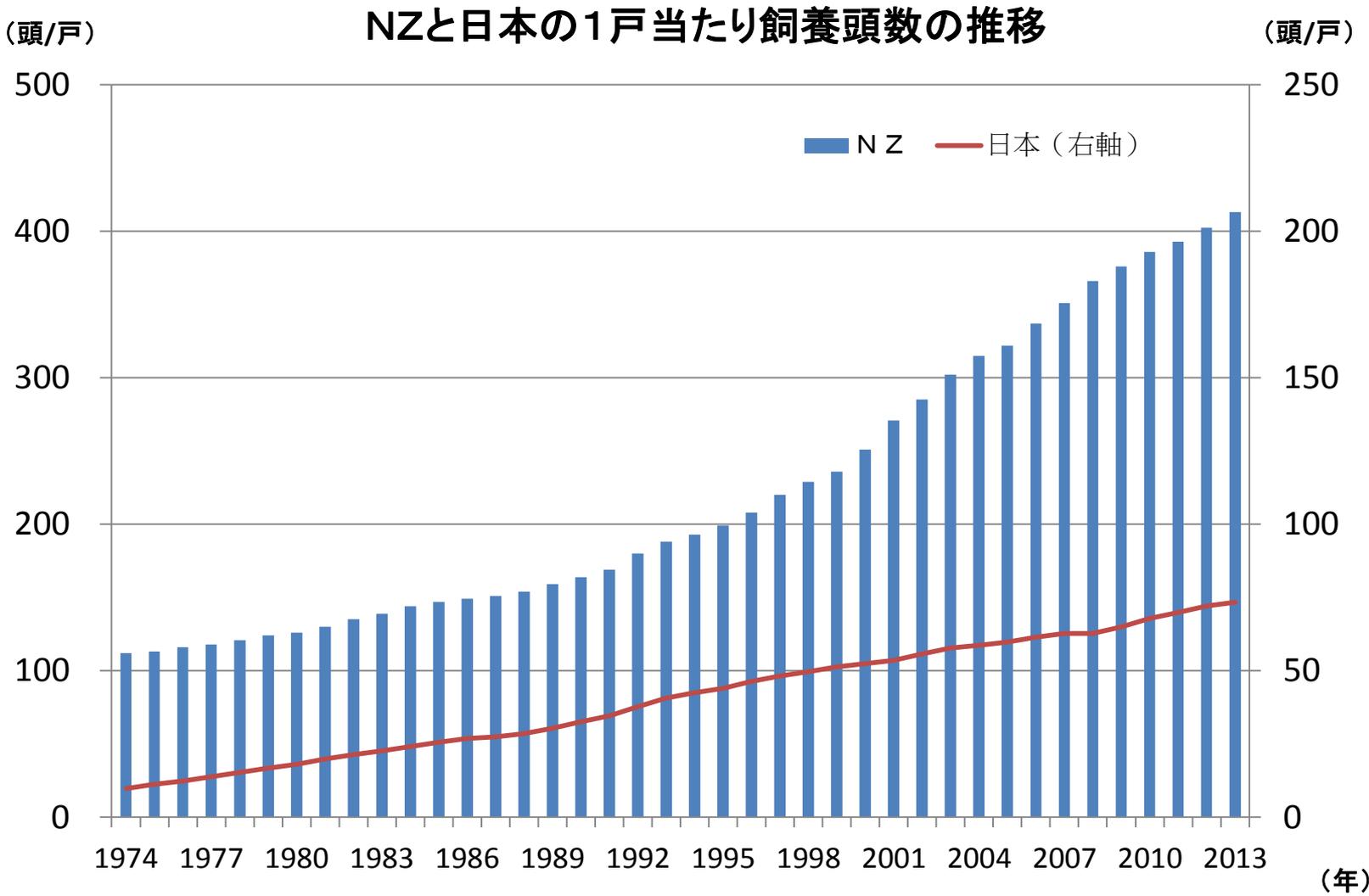
はじめに

NZと日本の酪農家戸数の推移



資料：デーリーNZ、農林水産省

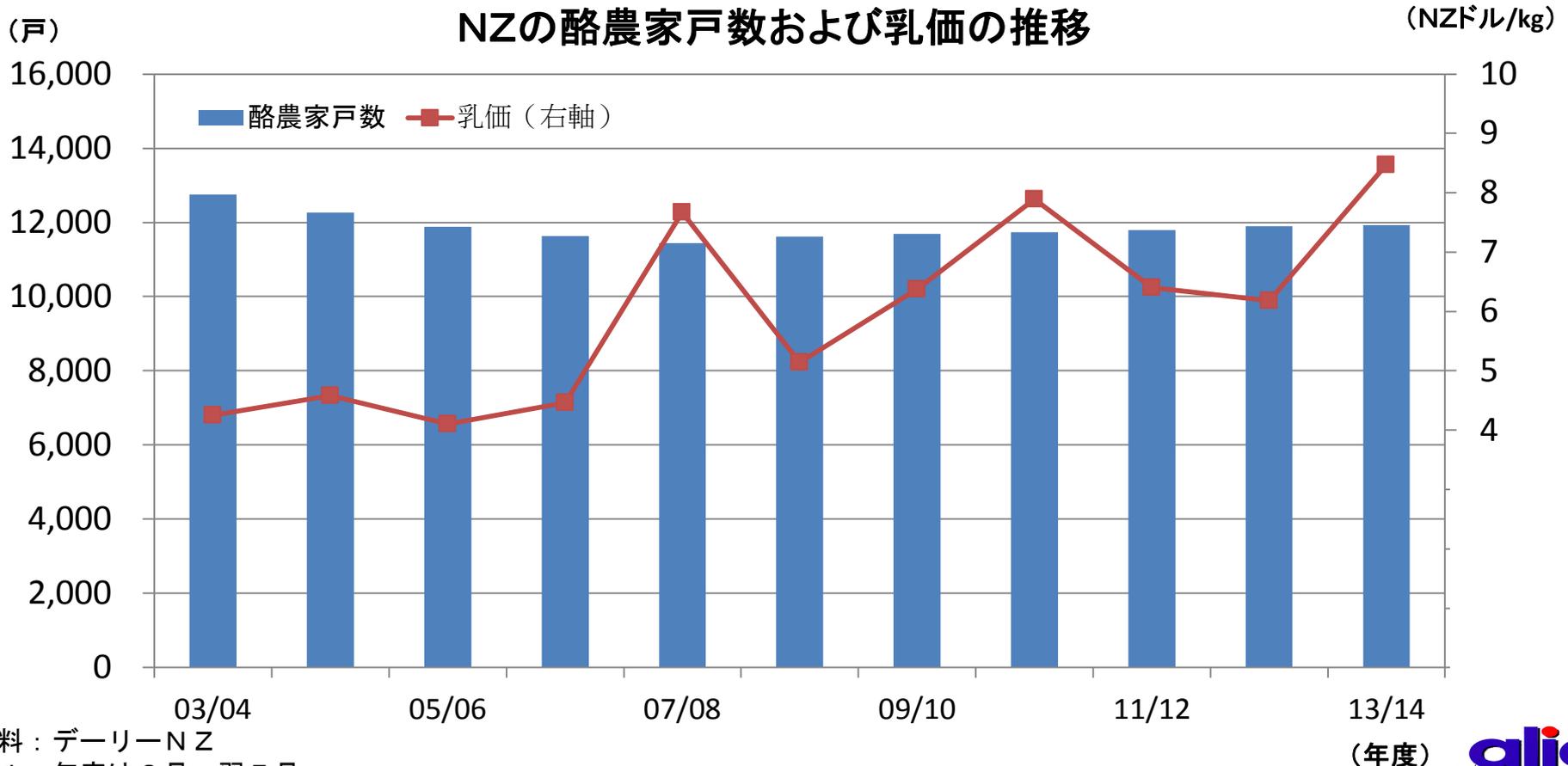
NZと日本の1戸当たり飼養頭数の推移



資料：デーリーNZ、農林水産省

近年のNZの酪農家戸数

- 90年代末から緩やかに減少。
- 07/08年度：乳製品国際価格上昇→乳価上昇→翌年度から酪農家戸数増加
- NZの1戸当たり飼養頭数は、過去10年で100頭増え、約400頭。
(日本は過去10年で15頭増え、約70頭)



資料：デーリーNZ

注1：年度は6月～翌5月。

注2：乳価は乳固形分ベース。

1 シェアミルカー経営の定義

シェアミルクカー経営とは

- シェアミルクカー経営は、オーナー経営と収入、費用、労働を分配（シェア）して行う共同経営システム。シェアミルクカー経営は、若い酪農家が、知識、経験、資金を蓄積し、オーナー経営にステップアップする前段階。
- NZでは、オーナー経営になるまでに明確なキャリアステップが存在。中でもシェアミルクカー経営は、伝統的な制度として、すでに1937年には関連法律が制定され、円滑な労働契約の締結と履行が制度化。
- 労働負担の軽減や余暇の確保を求めるオーナー経営側も、実作業を任せつつ、一定の収入が確保される仕組み。

※類似の経営システムとして、コントラクトミルクカー経営が存在。

シェアミルク経営などの概要

	シェアミルク経営		コントラクトミルク経営
	50/50シェアミルク	VOシェアミルク (Variable Order: 分配率多様)	
位置づけ	オーナー経営の前段階	50/50シェアミルク経営の前段階	VOシェアミルク経営と同等か、その前段階
所有物	<ul style="list-style-type: none"> ・牛群、施設(搾乳舎以外)、農機具など。 ・オーナー経営が土地および搾乳舎を所有。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設(搾乳舎以外)、農機具など。 ・オーナー経営が土地、搾乳舎および牛群を所有。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般にオーナー経営が全て所有。
役割	<ul style="list-style-type: none"> ・牛群管理、搾乳、飼料調製、機械の管理、労働者雇用、これらに関連する財務管理。 ・オーナー経営が資産管理、高度な経営戦略を担当。 	<ul style="list-style-type: none"> ・搾乳のみの場合や、飼料調製、機械の管理、労働者雇用、これらに関連する財務管理まで含む場合など、分配率により多様。 ・オーナー経営が牛群管理、資産管理、高度な経営戦略を担当。 	<ul style="list-style-type: none"> ・搾乳のみの場合や、飼料調製、機械の管理、労働者雇用、これらに関連する財務管理まで含む場合など、契約により多様。 ・オーナー経営が牛群管理、資産管理、高度な経営戦略を担当。
収益の分配	<ul style="list-style-type: none"> ・オーナー経営との折半。 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約(分配率)に基づき、オーナー経営と分配。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生乳1キログラム単位で搾乳量に応じた収入。

資料：デーリーNZ資料、現地聞き取りなどをもとに機構作成。

注：実際の契約形態の細部は各契約により異なる。

NZの酪農家のキャリアステップ(一例)

従事年数	キャリアステップ	概要
1～2年目 (22～23歳)	農場アシスタント	<ul style="list-style-type: none"> ・日常作業(飼料給与、搾乳など)を手伝いつつ、技術、知識を習得。 ・経験蓄積後、一部の作業を一人で担当。
3～5年目 (24～26歳)	牛群マネージャー	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料給与、搾乳、牛群管理など一部の作業を一人で担当。 ・大規模な農場では、一部の労働者を監督。
6～8年目 (27～29歳)	生産マネージャー	<ul style="list-style-type: none"> ・牛群や牧草の管理を中心に多くの実務を担当。 ・他の労働者の監督も主な業務。
9～14年目 (30～35歳)	VOシェアミルクカー	<p>この段階で、コントラクトミルクカーが入る場合も。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初は、比較的大規模な酪農場と契約(分配率低い(29%以下))。 ・その後、より役割が大きく分配率の高い(30～49%)契約に移転。
15～20年目 (36～41歳)	50/50シェアミルクカー	<ul style="list-style-type: none"> ・酪農場におけるほとんどの実務を担当。 ・当初は、牛群を自己所有する費用負担から、比較的小規模な酪農場と契約。 ・その後、より大規模な酪農場と契約。経営戦略全般の決定にも、一定の関与。
21～29年目 (42～50歳)	オーナー経営	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的小規模な酪農場から開始し、規模拡大または大規模な酪農場へ移転。
30年目以降 (51歳～)	オーナー経営 (シェアミルクカー契約)	<ul style="list-style-type: none"> ・労働負担の軽減、余暇時間の確保のため、シェアミルクカーに作業を委ね、資産管理に特化。

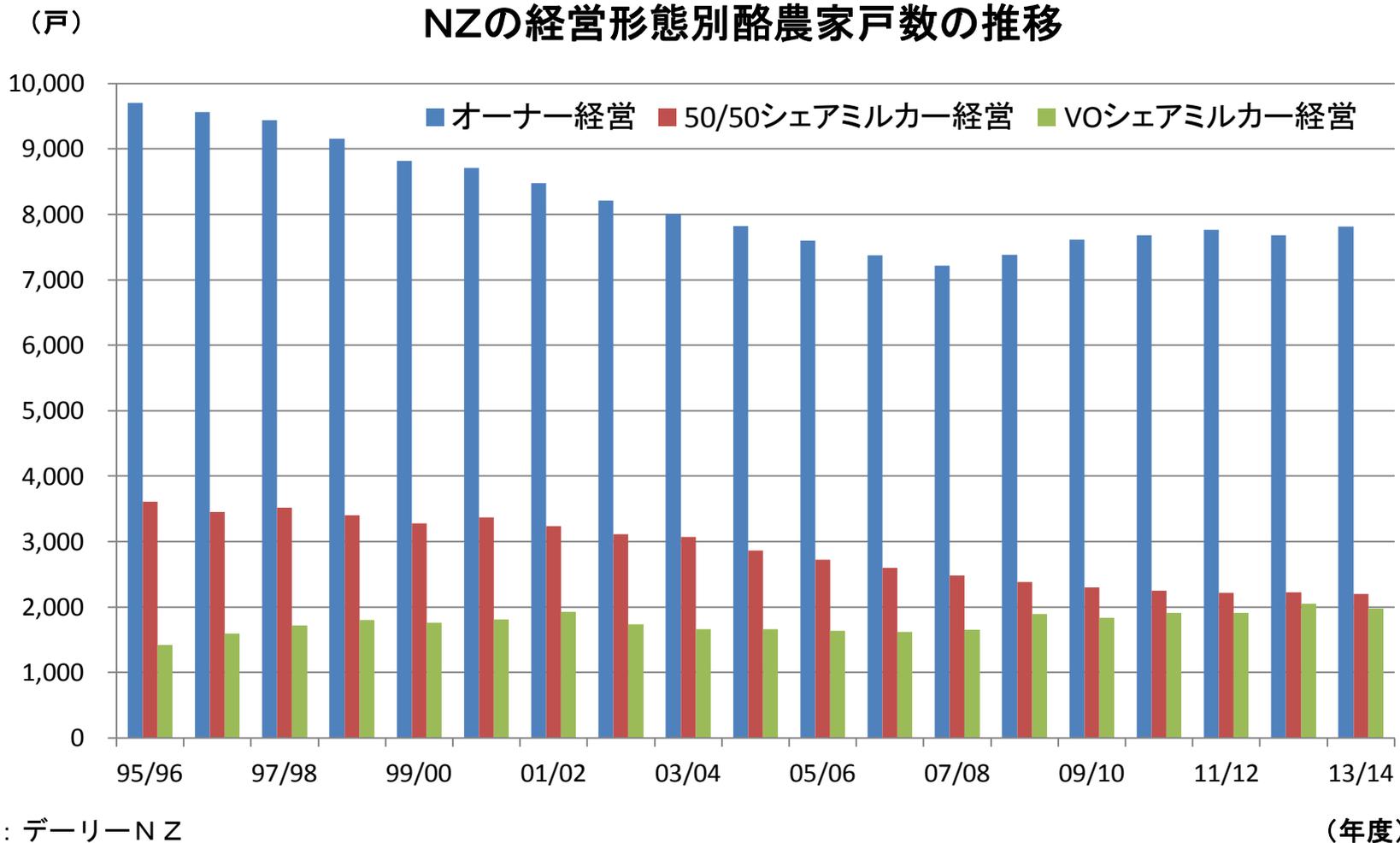
資料：デーリーNZ資料、現地聞き取りなどをもとに機構作成。

注：実際の労働形態の細部は各契約により異なる。

2 シェアミルカー経営の現状

経営形態別酪農家戸数(1)－推移

- オーナー経営は、07/08年度以降微増で推移。
- 50/50シェアミルク－経営は、緩やかな減少傾向。
- VOシェアミルク－経営は、06/07年度以降微増で推移。

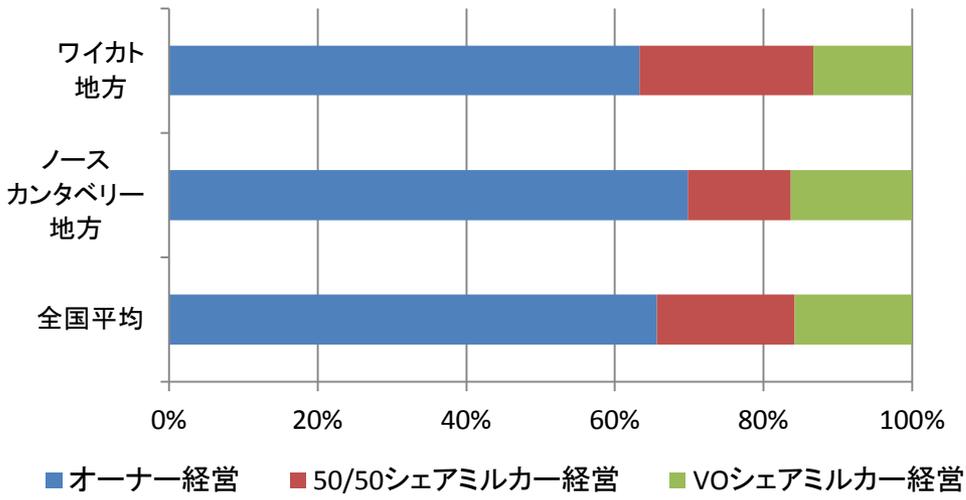


資料：デーリーNZ
注：年度は6月～翌5月。

経営形態別酪農家戸数(2) - 主要生産地方

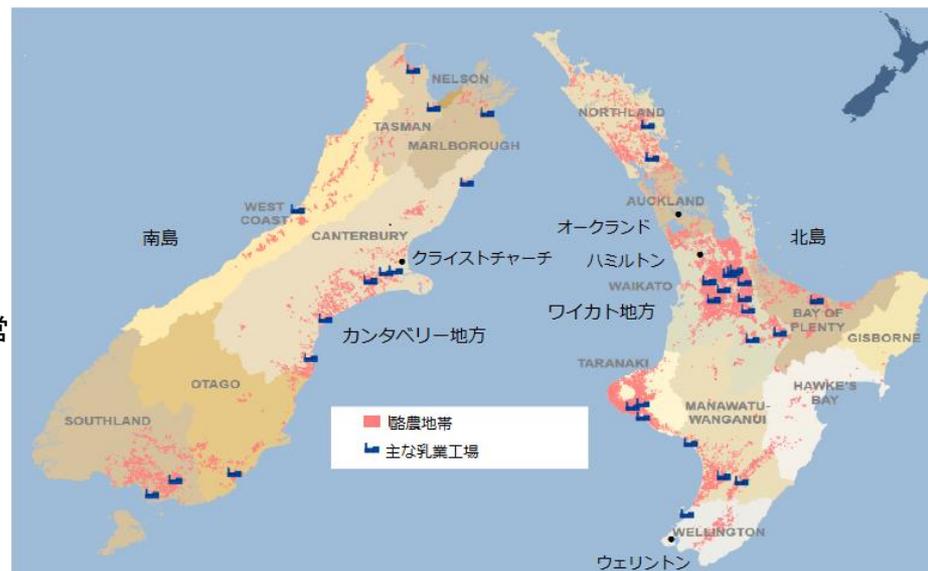
- 北島ワイカト地方 (最大かつ昔からの生産地方)
伝統的なキャリアステップの段階である50/50シェアミルクラーが多い。
- 南島ノースカンタベリー地方(新興生産地方)
近年、大規模経営体が増加。低分配率のVOシェアミルクラーが多い
→実質的に大規模経営体の雇用労働力に近い側面。

主要生産地方の経営形態別酪農家戸数シェア



資料：デーリーNZ

NZの酪農地帯

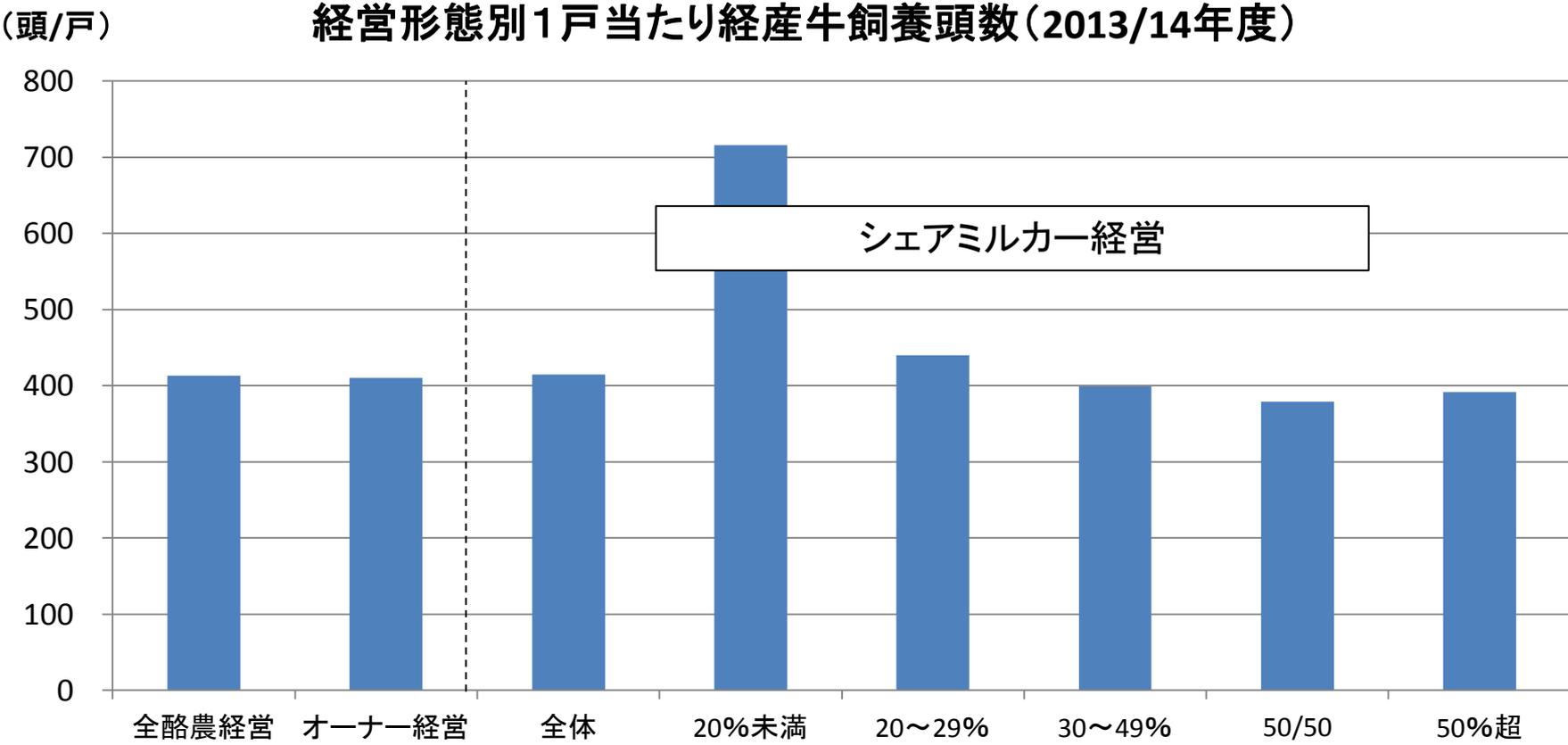


資料：NZ一次産業省

注：本地図は南北に連なるNZの国土を便宜的に左右に配置 (向かって右が北島、左が南島)

経営形態別飼養規模

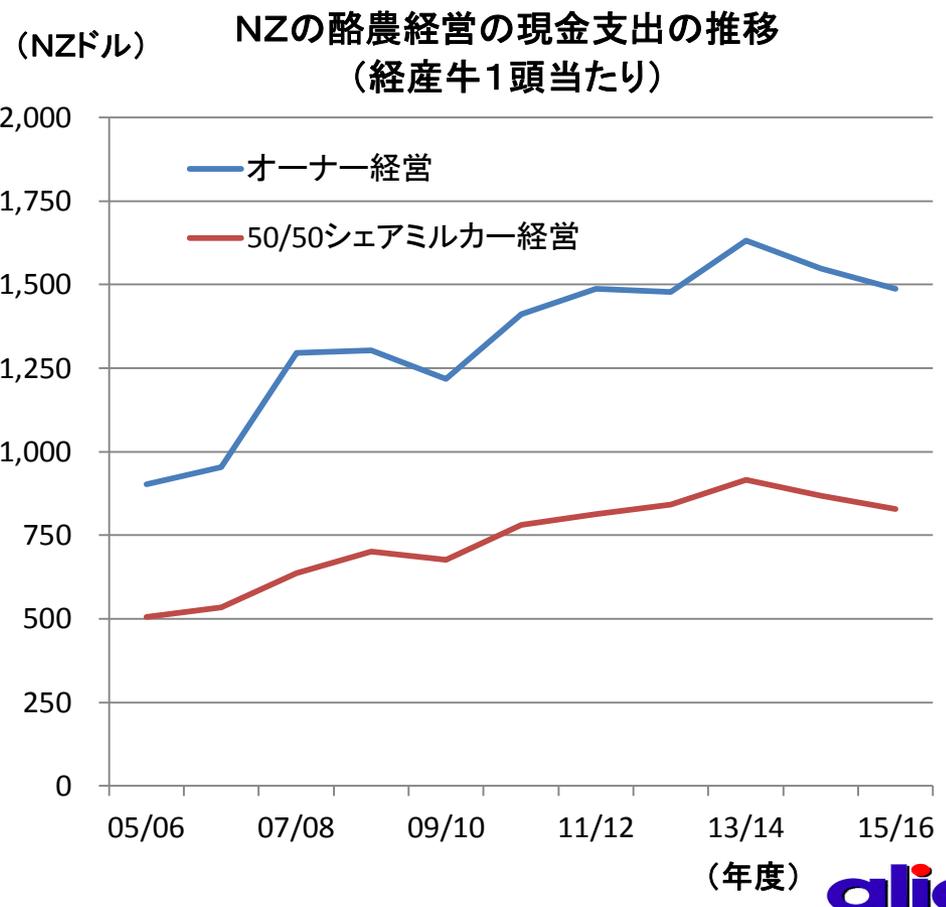
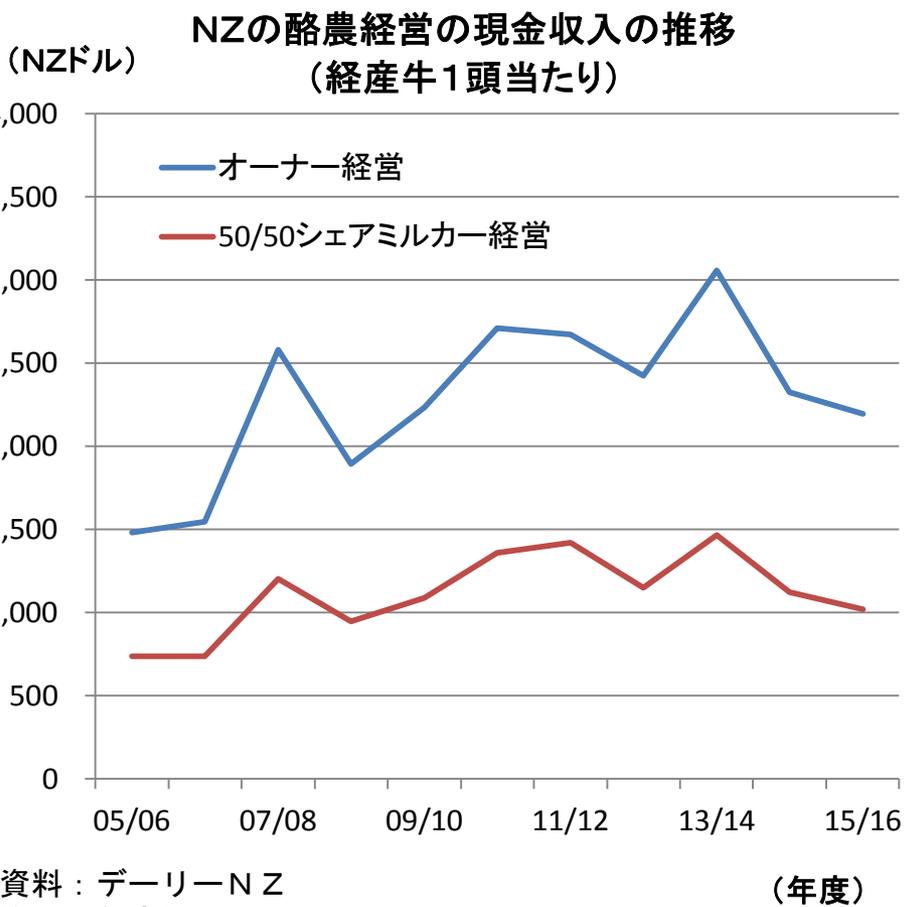
- 分配率20%未満のシェアミルクラーの飼養規模は突出して大規模。
- 分配率50%以上のシェアミルクラーは、牛群の自己所有に伴う費用負担の増加から、比較的小規模。



資料：デーリーNZ
注：年度は6月～翌5月。

現金収支の推移

- シェアミルク経営の現金収支は、オーナー経営と同傾向で、水準は半分。
- 現金支出はおおむね増加傾向。現金収入も長期的には増加傾向にあるが、年度による増減が大きい。



資料：デーリーNZ
 注1：年度は6月～翌5月。
 2：2014/15年度以降は予測。

まとめ(2 シェアミルクカー経営の現状)

- NZの酪農経営は、3分の2がオーナー経営で、3分の1がシェアミルクカー経営。つまり、この「3分の1」の若手が、後に「3分の2」のオーナーへとステップアップするという仕組み。
- 近年、オーナー経営、VOシェアミルクカー経営は増加傾向。50/50シェアミルクカー経営は減少傾向。
- VOシェアミルクカー経営は、自らの役割、費用負担が小さく、実質的に大規模なオーナー経営の雇用労働に近い側面。そのため、南島の新興大規模経営体を中心に増加。
- 50/50シェアミルクカー経営の現金収支は、定義通りおおむねオーナー経営の半分の水準で、オーナー経営と同じ傾向で推移。

3 シェアミルカー経営を取り巻く 最近の動き

酪農経営の急速な規模拡大

- 2000年代以降、国際的な乳製品需要の高まりを受けて、酪農経営の大規模化が急速に進展。
- 2001年のフォンテラ設立による生産体制の統合、輸出競争力の強化も規模拡大の背景。

		2003/04年度	2013/14年度	変化率(%)
1戸当たり 経産牛飼養頭数	頭	302	413	+36.8
1戸当たり 酪農場面積	ha	111	144	+29.7
オーナー経営 1戸当たり現金収入	NZドル	426,505	1,228,444	+188.0
オーナー経営 1戸当たり現金支出	NZドル	247,038	655,858	+165.5

資料：デーリーNZ

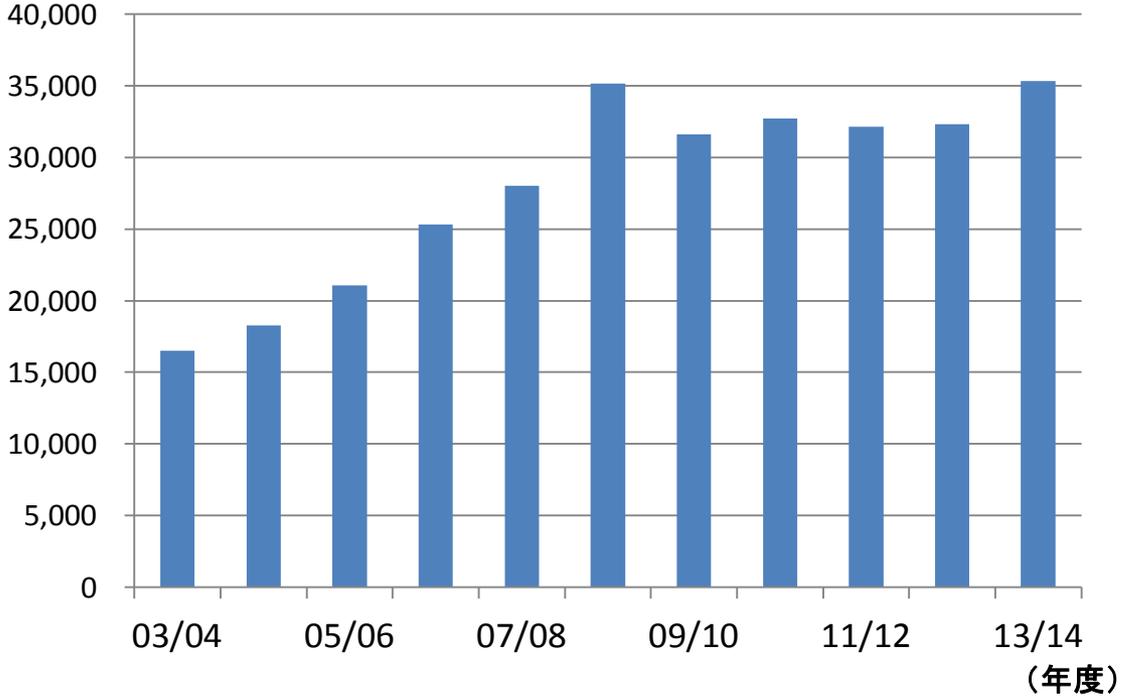
注：年度は6月～翌5月。

酪農場価格の高騰

- 2000年代以降、酪農場価格は大幅に上昇。乳価の上昇に伴う酪農の規模拡大が背景。
- 酪農場は、風光明媚な立地から、資産としても価値が高い。

(NZドル/ha)

NZの酪農場価格の推移



酪農場の風景



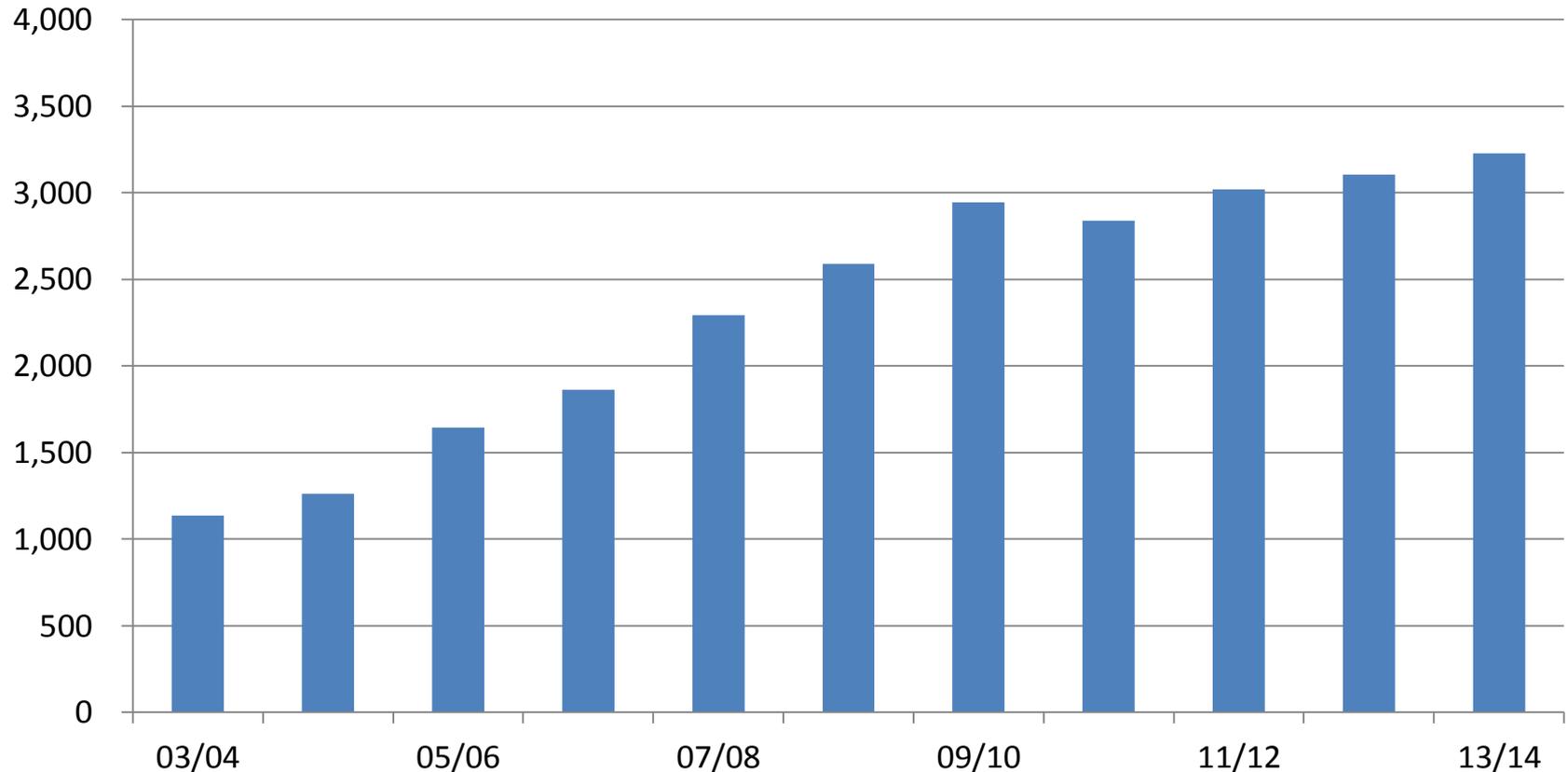
資料：デーリーNZ
注：年度は6月～翌5月。

負債額の増大

- 近年、酪農経営の負債額は、大幅な増加傾向が継続。
- 特に近年は、酪農場価格の高騰により、オーナー経営になるには多額の借入が前提。

酪農経営の負債額の推移(オーナー経営1経営体当たり)

(千NZドル)



(年度)

資料：デーリーNZ
注：年度は6月～翌5月。

労働機会の競争

- 長期的に、酪農経営体数は減少している一方、雇用労働者数は増加。
 - 一方、効率化の進展により、新たな労働機会は限られる可能性。
- 近年、相対的に酪農場数に対して労働者数が多い状況が進展。
→シェアミルクカーも含め、これまでより限られた労働機会の競争が高まる結果に。

		1985/86	2004/05	変化率 (%)
酪農経営体戸数	戸	15,753	12,271	▲22.1
酪農に従事する フルタイム換算労働者数	人 (概数)	5,000	15,000	+200.0
フルタイム換算労働者 1人当たり経産牛飼養頭数 (労働効率の指標)	頭 (概数)	70	130	+85.7

資料：デーリーNZ「Smarter Not Harder」

注：年度は6月～翌5月。

もう一つの経営体－エクイティ・パートナーシップ

- 若年の酪農家、年配の酪農家、酪農に直接従事しない投資家などの共同出資による合弁企業体。
- 若年の酪農家は、「エクイティ・マネージャー」として、酪農経営に従事。
- 利益は、出資割合に応じて、各出資者に分配。
- エクイティ・マネージャーは、利益の分配に加え、合弁企業体の従業員としての給料を受給。

メリット

- 複数の者の共同出資であるため、相対的に資金負担が少なく、リスクも分担。
- 一定の資金力があれば、金融機関からの融資を受けやすい。
- 資金力のない50/50シェアミルク経営やオーナー経営よりも、より大規模な農場で、オーナーに近い立場で働く方ことにより意欲が高まる。

デメリット

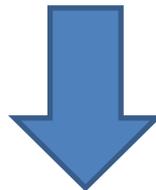
- 複数者の共同経営のため、意思統一に時間・手間がかかる。

まとめ(3 シェアミルクカー経営を取り巻く最近の動向)

- 国全体での酪農の発展→新たな土地の取得が困難
- 酪農の経営規模の拡大→酪農経営に必要な費用の増加
- 乳価上昇、規模拡大による酪農従事者の増加→労働機会の競合の高まり



- 50/50シェアミルクカー経営、オーナー経営になるまでの期間の長期化。
- かつては30代でオーナーになれたのが、現在は40代が主流。
- そもそも、オーナーや50/50シェアミルクカーになること自体が困難に。



- 低分配率のVOシェアミルクカーおよびエクイティ・パートナーシップの増加。

おわりに

- NZでは、伝統的にシェアミルクカー経営が重要なキャリアステップの段階として機能し、酪農の発展に貢献。
- その一方、近年は従来と異なる動き。
 - 伝統的な50/50シェアミルクカー経営は減少傾向の一方、大規模農場を中心に低分配率のVOシェアミルクカー経営が増加傾向。
 - 近年の急激な酪農の発展が、結果的に伝統的なキャリアステップ(オーナー経営、50/50シェアミルクカー経営)が困難となる事態を招く形に。
 - 今後は、オーナー経営や50/50シェアミルクカー経営が横ばい又は減少し、より費用負担の少ないVOシェアミルクカー経営やコントラクトミルクカー、エクイティ・パートナーシップなど企業的経営体が増加する見込み。

まとめー日本への参考

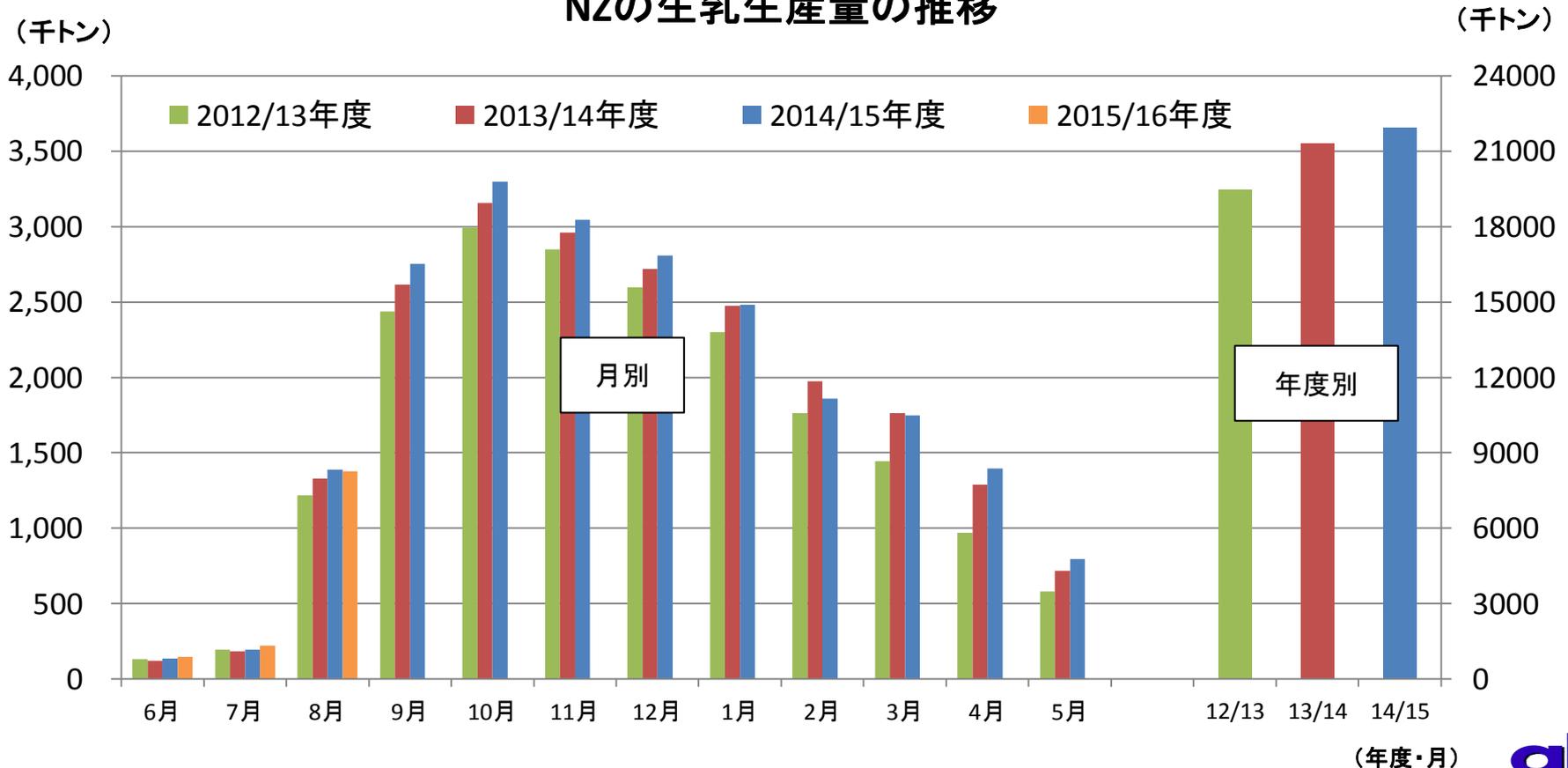
- NZでは、シェアミルクカー制度と明確なキャリアステップが、酪農経営の新規参入・後継者確保に大きな役割を果たしてきており、近年、酪農家戸数は増加傾向。一方、日本では、酪農家戸数の減少傾向が継続。
- NZと日本では、酪農の産業構造、政策面での位置づけなど大きく異なるものの、NZのシェアミルクカー制度をめぐる動きが日本の酪農における新規参入・後継者確保を考える上で参考とすべき点も。
- NZでは、外貨の獲得源である酪農は、投下資本が拡大する中、経営者の力量が問われている。日本では、酪農が牛乳・乳製品供給に果たす役割に対し、社会的な関心が高まる中、生産基盤の強化に向けた支援策が論じられているが、経営者としての資質を高める努力も伴う必要。

(補足)
最近のNZの酪農乳業情勢

生乳生産の推移

- 近年のNZの生乳生産量は、増加傾向で推移。
- 2014/15年度は、懸念された夏季の干ばつの影響は軽微にとどまり、2年連続で2千万トン超の生乳生産。
- 直近2015年8月は、前年比わずかに減少。

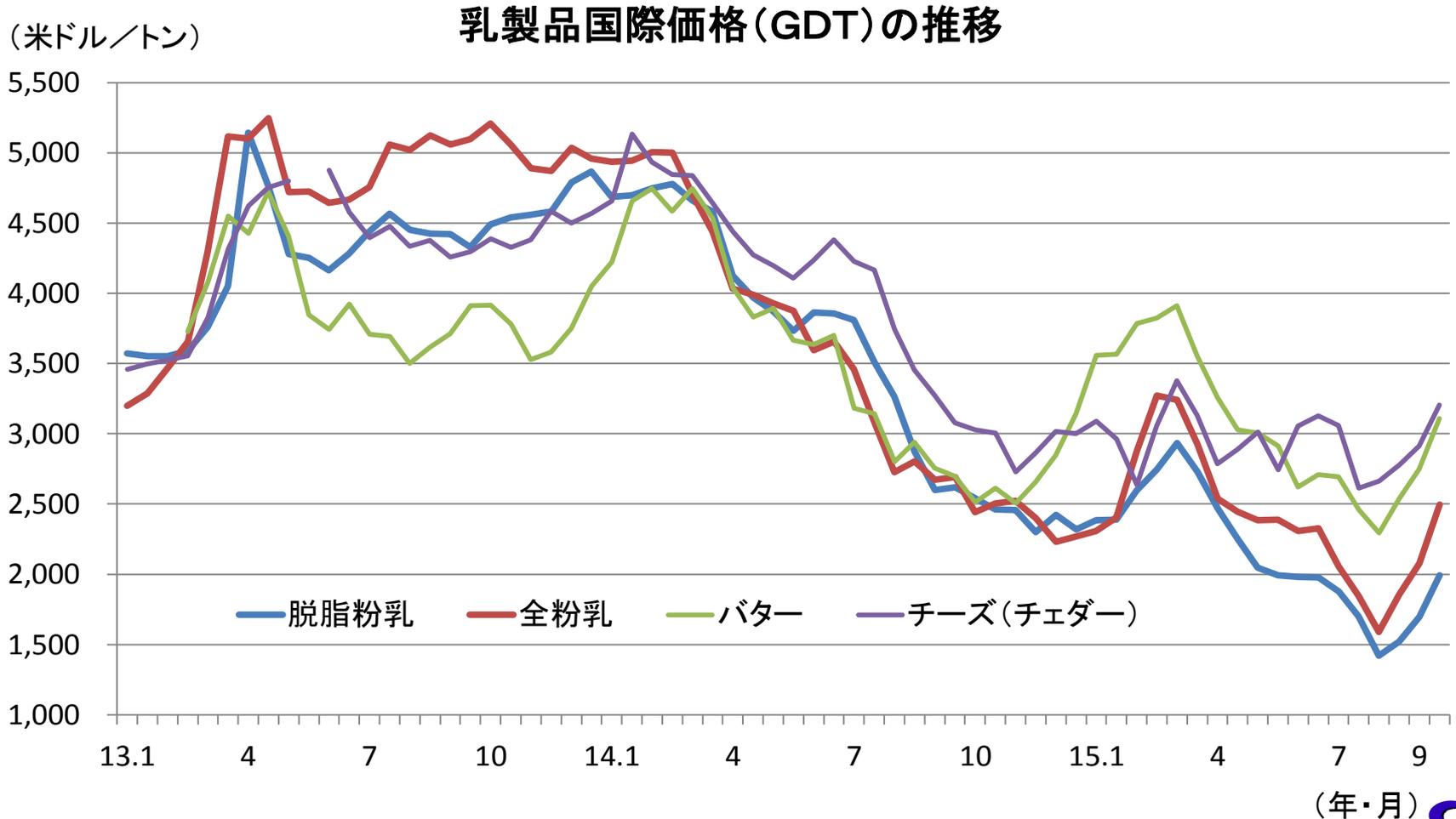
NZの生乳生産量の推移



資料：DCANZ
注：年度は6月～翌5月。

乳製品国際価格の推移

- NZの乳業は輸出に特化しており、乳製品国際価格の変動が、酪農経営に大きく影響。
- 2013年、主な輸出国の生産減、中国等新興国の需要拡大により高騰。
- 2014年、主な輸出国の生産増、中国の需要緩和、ロシアの一部の国からの輸入停止により急落。
- 最近の乳製品国際価格(GDT)は、上場数量の減少からやや回復。

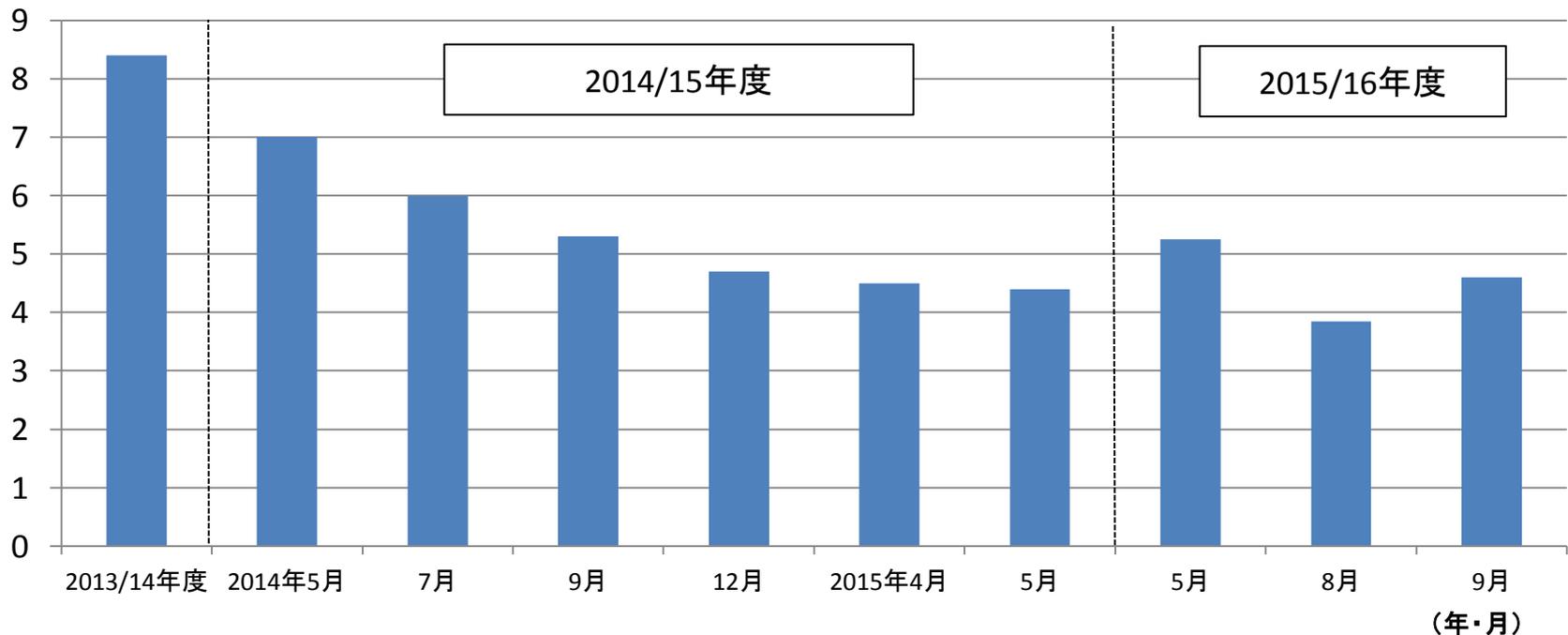


乳価の推移

- NZの乳価は、年度当初に暫定値公表、需給変動に応じて、年度内に改定。
- 2014/15年度は、需給緩和のため、5回引き下げ。
- 2015年9月現在の乳価は、乳製品国際価格に連動して、わずかに回復。
- 2000年代初めの損益分岐点は3NZドルほどであったが、近年は5NZドル前後。
- 酪農家は、牧草以外の飼料給与削減、早期乾乳で対応→生産減少を招く可能性。

(NZドル/kg)

フォンテラの生産者乳価の推移



資料：フォンテラ

注1：乳固形分ベース。

2：NZの乳価は、年度途中の額は暫定的な見込み値であり、最終的には、年度末の確定値が年度全体に適用される。



ご清聴ありがとうございました

本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。
本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断でお願いします。提供した情報の利用に関連して、
万一、不利益が被る事態が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。